

編集後記

このたびの東日本大震災により多くの方々が犠牲となり、尊い命が失われたことに謹んでご冥福を申し上げます。また、被災された方々にお見舞い申し上げつつ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0という未曾有の大地震が東北関東を襲った。東京の交流協会でも、これまでとは違う突然の大きな揺れが長く続き、壁に亀裂、衝立の転倒等の一部の物的被害はあったものの全職員が怪我もなく無事だったことが何よりでありました。その日は、交通網が寸断されるなか、一部の職員が数十キロを何時間も掛けて徒歩で帰宅するものがあるなか、多くの職員が事務所に待機せざるを得なく翌朝の電車の復旧を待ちました。

今回の震災では、台湾から心温まる大きな支援をいただきました。早速にかけつけていただいた緊急援助隊による人的支援、発電機、毛布、寝袋、食料など沢山の物的支援、様々な方々からの義捐金等、重ね重ね台湾に感謝です。本当にありがとうございます。

緊急援助物資については、地震と津波により鉄道・道路網が寸断される影響で、緊急援助物資がなかなか思うように行き届くのに苦労されていた。これは、先の阪神・淡路大震災と異なり、被災地事態が南北に500km超にわたり避難所が2000カ所以上にもわたるところに大きな要因の一つがあるのではとも思われます。そのなかで、一生懸命に働いていらっしゃる方々、ボランティアに方々に本当に感謝です。

また、多くの国々からの支援もいただき本当にありがとうございます。この大震災からの復興にはまだまだ乗り越えなければならない数多くの課題が山積しております。そのためには、数多くの早急な施策が必要であり、被災地のことを一番に考えることは勿論ですがその際には「役所の省益」、「県益」でもなく、日本国としての「国益」として考えていただきたいと願っております。さらには、国益をも越え、「世界益（地球益）」への第一歩の一つになるきっかけであればいいと思う今日この頃です。

まだまだ余震が頻発している中、避難所生活が続いている皆様方におかれましては、言葉に言い表せないご苦労があると思いますが、皆様方の健康を心配するとともに一日でも早い心も含めた復興が叶いますようお祈りしております。

まとまりがない文章を書いてしまいましたが、お詫びとして最後に、私自身が最も印象深く感動した、第83回選抜高校野球大会での、創志学園（岡山）の野山慎介主将の選手宣誓の全文をご紹介します。結びとさせていただきます。

「私たちは16年前、阪神・淡路大震災の年に生まれました。いま、東日本大震災で多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。被災地ではすべての方々が一丸となり、仲間とともに頑張っておられます。人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えることができると信じています。私たちに今できること。それはこの大会を精いっぱい、元気を出して戦うことです。「がんばろう！日本」。生かされている命に感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います。」

（総務部次長 井嶋 哲男）